

一般質問

定例会では、提案された議案に関係なく、市長や関係する理事者に対し、市政全般にわたり質問することができます。

これを「一般質問」といい、十二月定例会では八人の議員が一般質問を行いました。（本稿は、質問した議員がそれぞれ七百五十程度にまとめたものです。詳しい内容は、図書館等で会議録を閲覧いただくか、インターネットでもご覧いただくことができます。）

市内循環バスについて

議員

まちの活性化のためには、なつみ台から牧野小学校まで、大深町から小・中学校まで、また、県立五條病院への通院など、子供も大人も利用できる市内循環バスが必要であると思われるが、その早期実現をお願いしたい。

総務部長

南和地域全体で過疎化、高齢化が進んでおり、通勤・通学等における交通網の整備は、まちの活性化を図るためにも重要な課題である。なつみ台は、開発業者ともバス運行について協議をしているところであり、交通弱者に対する移動手段の確保については、今後とも協議して検討してまいりたい。

教育部長

過疎化、少子化が進んでいる地域を応援する意味においても遠距離通学支援は必要なものと考えているので、今後とも研究・検討して適切な方策を講じてまいりたい。

県立五條病院の産婦人科の再開と立て直しについて

議員

五條病院の産科の休止に連れ、ほかの診療科の患者も少なくなり、患者のほとんどが橋本市の病院に行き、そのついでに買い物をしていくということで、五條市はだんだん不景気になっていく。十津川村の方も頼りにしており、同病院の立て直しについて市の考えを聞かせてほしい。

健康福祉部長

産科の再開については、再三再四県と医大に対し、市と南和地域の現状を訴え、医師の確保と五條病院の充実を強く求めて要望を重ねてきたが、全国的な医師不足から現在も見通しはつかない状態である。しかし、南和の中核病院でもあり、市民の安心・安全のため、近隣の南和地域の市町村など関係機関と協力して、今後とも要望を行ってまいりたい。

五條市総合計画及び新市建設計画と市長の政策との整合性について

議員

市長は、就任して以来、今までの行政の流れや計画を無視した「その場その場の思い付き行政」とやゆされるような行政に終始してきた。

市長が現在、計画・立案している事業をすべて合わせると三百二十三億円となり、その優先順位はすべて一番であると明言しているが、財政状況を考えると理解できない。

行政は、法に基づき、計画に沿って進めるべきである。

五條市の「総合計画」は、基本構想と基本計画から構成され、市が目指すべき将来像、市民と行政が共有すべき目標と、そのために必要な政策や達成すべき目標を定めている。

一方「新市建設計画」は、合併後、市の建設を、総合的・効果的に推進していくための指針である。

市長は、これら、市民との約束を軽視せず、計画している事業を実現していたきたい。

市長

最上位計画である総合計画の指針に基づき、財政健全化の大枠の中で、主要事業等の実施に慎重を期して取り組んでまいる所存である。

議員

市長は、総合計画な

どを無視して、何もかも自分の思いのままに進めようとしている。

やり繰りをしたらできるなどの問題ではない。

努力すればできるとか、大体このくらいだからとか言うが、無責任である。

総合計画は平成二十年九月に制定されており、今、市長が言われている二百二十三億円の建設が必要なら、その中に入れておくべきではなかったのか。

勝手な、思い付きではなく、基本計画に基づいて実施するべきである。

阿陀比売神社の修繕について

議員

五條市の指定文化財第一号である阿陀比売（あだひめ）神社の歴史は非常に古いが、社殿の檜皮葺の屋根等の傷みがひどく、一日も早い改修をお願いしたい。

教育部長

本殿は江戸時代初期の貴重な建造物であり、関係者から修理の相談を受けていたところである。財政的な支援策等を検討し、県の現状調査も受けたが、県指定は難しく、今後、社殿の状況に注意を払いながら地元の意向に沿えるよう努力してまいりたい。

五條市の名誉市民及び観光大使について

議員

模図かずおさんは、五條市で育った全国的に有名な漫画家であり、平城遷都一三〇〇年に合わせて五條市の名誉市民及び観光大使になっていただきたい。

また、「まことちゃん像」の設置も検討してほしい。

総務部長

以前、まちづくりのため協力を依頼したことがあるが、調整がつかず断念をした経緯がある。しかし、親交のある議員に尽力いただき、検証しながら検討してまいりたい。

万葉の道について

議員

奈良・和歌山県境を流れる落合川に飛越え石と名付けられた渡り場があり、和歌山県側は「万葉の道」として整備されているが、五條市側は木が倒れて道がふさがっている。

総務部長

過去二回ほど歩道の整備等を行ったが、大半が民地であるため地元との調整が必要である。今後、ルートの変更も考慮しながら、橋本市と調整を図り、整備及びPRに努めてまいりたい。

新町地区の無電柱化について

議員

新町地区では、十年前から開始された街なみ環境整備事業で景観が随分良

くなっているが、電柱や電線類が町並みの景観の悪化にもなっているように思う。

無電柱化にすることにより、高齢者・障害者に配慮した、ゆとりある歩行スペースなどの歩行者空間の確保、また、地震や台風などの災害時の道路機能の維持と、安全・安心なまちづくり、快適なまちづくりが形成できるのではないかと。

新町地区の無電柱化を、一日も早く推進していただきたい。

都市整備部長

平成十年開始の街なみ環境整備事業の中で、電線等の地中化を協議したが、当時の技術では、困難であるということと断念した。

再度地中化について検討したが、やはり地中化は困難ということであったので、新町地区の実情に応じた無電柱化工法を研究し、地元関係者や関係機関と協議を行い、当市の事業実施形態に最も適したものを検討しているところである。

議員

新町地区の皆さんは重要伝統的建造物群保存地区に向けてということと頑張っておられる。

また、新町通りは全国でも有数な昔の町並みである。何とかいい方法を見つけていただき、一日も早く無電柱化を促進していただきたい。